

IV-13 高速道路利用者の時間制約に基づくアクティビティ分析

北海道大学 学生員 高 橋 清
 北海道大学 正 員 佐 藤 馨 一
 北海道大学 正 員 五十嵐 日出夫

1. はじめに

高速道路の整備は、産業の市場圏を拡大し立地条件を向上させるなど地域の産業活動を活性化し、地域の振興に多大な影響を与える。またそれと同時に、地域社会に暮らす人々の生活にもさまざまな、影響を及ぼす。特にマイカー観光が活発になる中で、高速道路の整備は、観光レクリエーション活動に種々の変化を与え、また地域の観光産業に対しても大きなインパクトを及ぼしている。

本研究は高速道路の整備を産業振興や観光客の入り込み客数といったマスのな捉え方をするのではなく、高速道路利用者のアクティビティという側面から細かく分析し、時間空間的制約を持つ活動の中での高速道路の効果を明かにすることを目的とする。

2. 高速道路利用によるアクティビティと時間

(1) アンケート調査

高速道路利用者の活動を詳細に把握するためには、今までのようなODのみの調査をするのではなく交通を、時間空間的制約の中で、他の活動との相互関係において把握できるアクティビティ調査が必要である。

調査は、昭和63年10月9日に、高速道路利用意識と、当該旅行のアクティビティと時刻を記入する調査票を高速道路の入口ゲートにおいて配布し、記入の後郵送回収を行った。配布数は5000票、回収票は601票で回収率12.0%であった。

(2) 利用者意識分析

高速道路の利用意識を、交通目的により大きく観光、業務に分類し分析を行った。

図1は、観光、業務目的の旅行者が、日帰りの場合、高速道路をどのような理由で利用したか見たものである。業務目的の場合、時間にゆとりがないからと回答した人が多い。これは仕事の都合による時間的な制約を示していると考えられる。観光においては、目的地に早くついてゆとりをもって過ごしたい

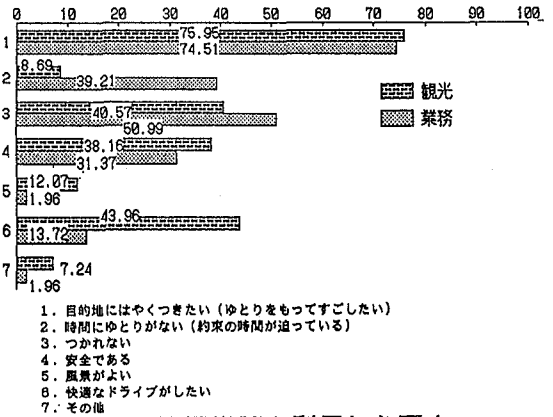


図1 高速道路を利用した理由

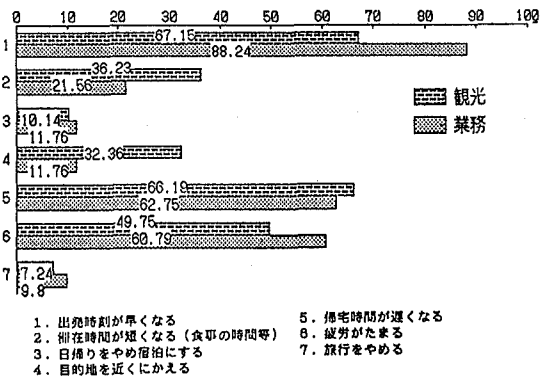


図2 高速道路を利用しないときの対応

と回答した人が多くなっている。また、疲れないうで快適なドライブがしたいと回答している人も多い。

図2は、観光、業務目的の旅行者が日帰りの場合、高速道路を利用できなかった場合どのような変化があるか示したものである。観光においては、帰宅時刻の変化が、業務においては出発時刻の変化が大きい。日帰り観光においては、高速道路が利用できない場合、目的地を近くに変更するという回答が大きな割合となっている。観光の場合、目的地をある程度変更できるという自由度の高い活動だということがわかる。

(3) アクティビティ別の時間制約

高速道路利用者がどの時間を重要と考え活動した

かを分析することにより、個々のアクティビティにおける時間の制約を明かとした。図3に示すように業務や送迎、訪問、冠婚葬祭のような、時間的に制約を受ける活動については、目的地の到着時刻を最も重要と考えているし、買物では、その後の活動と帰宅時間を重要と考えて活動している。観光活動では、目的地の到着時刻や出発時刻・帰宅時刻等に加え、滞在時間を重要と考えている人の割合が他の旅行目的に比べて多くなっている。観光活動の特性として、目的地にはやくつきゆとりを持って過ごしたいと滞在時間を十分に考慮して活動を行っていることを示している。

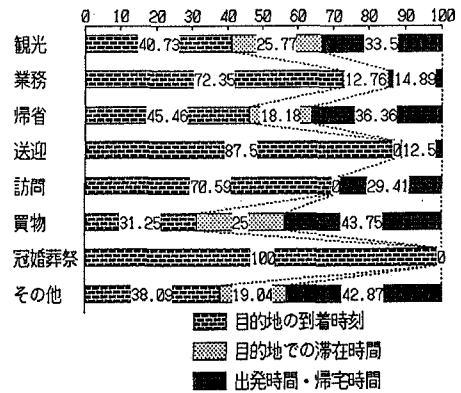


図-3 活動別の時間重要度

3. 観光活動と時間

(1) 観光活動における高速道路の役割

高速道路の役割は、移動速度を高めることによって時空間プリズム制約をゆるめ、すなわちプリズムの領域を大きくしてアクティビティの多様化、活性化を図ることにある。特に、滞在時間を重要視する傾向がある休日の周遊型観光交通の場合、2地点間を高速で移動できる高速道路の影響は滞在時間の確保だけでなく、出発時刻や帰宅時刻にまでおよぶ。また、空間的にはより遠隔地の観光地まで移動できることとなる。

(2) 高速道路利用における観光活動の効果

図4-(a)のルートは、行きと帰りに高速道路を利用した観光活動を制約プリズムによって記述したものである。時刻軸と平行な箇所は、観光スポットでの滞在を示している。前述したように、高速道路利

用による観光活動はこのプリズム制約の中でのみしか行なうことはできない。観光活動は時刻制約はきびしくないが、図3で示したような時間を重要視して活動を行なっている。また高速道路を利用しない際には、図2に示すような対応をとることが明らかとなっている。

このことにより高速道路を利用した時としない時のプリズム制約の変化と可能行動の差を表したものが図4-(b)、図4-(c)である。図4-(b)は、高速道路利用時と出発時刻、帰宅時刻を同じと考えたものである。これによると、観光地の滞在時間は殆ど0となり、滞在する観光活動が不可能となることが明らかとなった。また図4-(c)は目的地の到着時刻と滞在時間を高速道路利用と同じとして固定した場合のプリズム制約である。これを比較すると、滞在できるスポットが減っただけでなく、出発・帰宅時間が前後に大きく変化することになる。

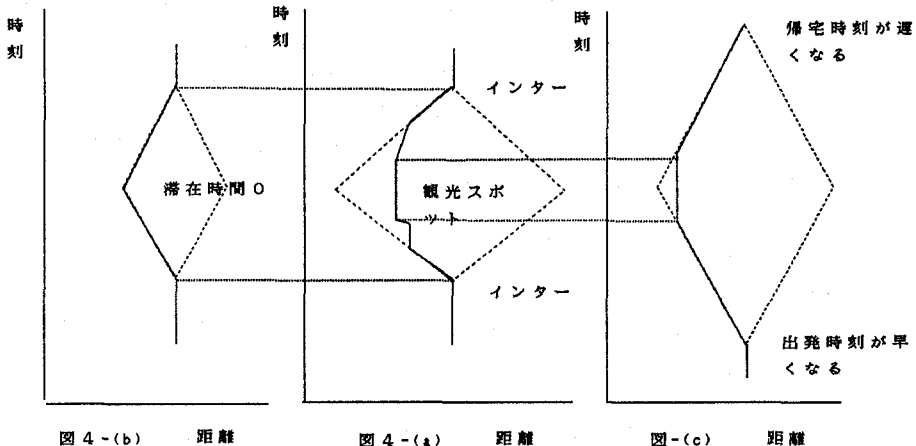


図-4 高速道路利用による観光活動の変化